

生誕250年記念

北斎漫画

江戸伝承版木を摺る

平成22年11月13日(土)～12月19日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日：毎週月曜日

観覧料：一般500(400)円 高校・大学生300(240)円

※()内は20名以上の団体料金 / 中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館 協力：美術書出版株式会社 芸仲堂 企画協力：アートシステム



〈関連事業〉

●伝承版木による再摺実演

講師：伊藤達也さん
(浮世絵木版画彫摺技術保存協会会員)
日時：平成22年11月13日(土)、14日(日)
両日とも①10時30分～ ②13時～ ③15時～
場所：企画展示室前ロビー 見学無料

●美術講座①『北斎漫画』の魅力

講師：当館学芸員
日時：平成22年11月28日(日)14時～
場所：講義室(聴講無料)

●ギャラリートーク

講師：当館学芸員
日時：平成22年11月21日(日)、12月5日(日)ともに14時～
場所：企画展示室(企画展観覧券要)

●美術講座②『北斎の時代と文化』

講師：当館学芸員
日時：平成22年12月19日(日)14時～
場所：講義室(聴講無料)



挿図①『北斎漫画』三編より

「ヨーロッパに『北斎漫画』をもたらしたことが確実にわかっているのは、「シーボルト事件」で有名なシーボルトです。シーボルトが一八三二年にオランダで刊行した『日本』という本に挿図として『北斎漫画』の所々から絵柄が転載されてい

名もない江戸の職人や絵師のタマゴたちから、モネやゴッホ、ガレなどの世界的な芸術家までを驚かせた『北斎漫画』は、幸いなことに江戸以来伝承されてきた版木が残されていたため、発行当時の雰囲気そのままに、平成の世に再摺されて私たちの目の前に展示されることとなりました。

漫画、というタイトルですが、『北斎漫画』は今日でいうコミックマンガとはちよつと違います。「漫然と描いた絵」とでも言いましょうか、江戸の風俗や人物、動植物、妖怪変化から歴史上の人物などをスケッチ風に描いた全部で約三九〇〇ほどの図が全十五編に収められています。なかには建築や武具などの詳細な図面風の図があったり、遠近法の説明図(挿図①)があったり、と教科書的な要素も含まれています。まさに森羅万象、ありとあらゆる事物を詰め込んだ「北斎ワールド」です。

そもそも『北斎漫画』は陶磁器の梱包材としてヨーロッパに渡った、という伝説がありますが、これは少々眉唾もので、実際に最初にヨーロッパに『北斎漫画』をもたらしたことが確実にわかっているのは、「シーボルト事件」で有名なシーボルトです。シーボルトが一八三二年にオランダで刊行した『日本』という本に挿図として『北斎漫画』の所々から絵柄が転載されてい

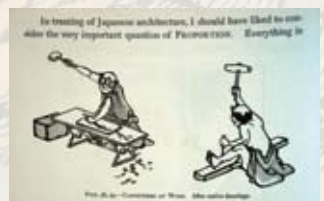


挿図④ ガレ「鯉文花器」(北海道立近代美術館所蔵)



挿図③『北斎漫画』十三編より

また、影響をうけたヨーロッパの工芸家に「北斎漫画」十三編に載っている「魚濫観世音」(挿図③)の絵から観音様を取り除いた鯉の絵柄をそのまま転写した文様のガラス花器がいくつもあります。写真(挿図④)はそのひとつで、北海道立近代美術館所蔵の作品です。ガレの「ジャポニスム」の出发点となった花器です。



挿図②『日本—その建築、美術、工芸』(クリストファー・ドレッサー著)より～二図とも『北斎漫画』初編より転載している

て、その後も様々な形でヨーロッパ全土へ紹介されていきました。明治に来日したクリストファー・ドレッサーもその著作『日本—その建築、美術、工芸』に『北斎漫画』から絵柄を転載しています(挿図②)。